



平成30年7月豪雨災害の記録

2018.07







ボランティア活動の様子(安佐北区井原)



ボランティア活動の様子(東区馬木)

はじめに

平成30年7月豪雨災害で亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、御遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。また、被災された多くの皆様にご心からお見舞い申し上げます。

今回の豪雨では、土石流やがけ崩れ、河川の氾濫などが発生し、本市で23名の尊い人命が失われ、いまだ2名の方が行方不明となっています。また、建物被害は3,000棟以上にのぼり、道路や河川、上下水道などのライフラインも甚大な被害を受けました。被災された方の中には、今なお困難な生活を強いられている方もおられます。

本市は、被災地域の復旧に当たって、原形復旧にとどまらず、改良復旧に主眼をおいて、地域の方々の御意見をしっかりと聴きながら、3年間の基本的な復旧期間として取り組むこととしています。また、これからも愛着を持って住み続けられるよう、国や県と連携し、迅速かつ着実に被災地の復旧・復興を進め、安全・安心なまちの実現に向けて職員が一丸となって取り組んでまいります。

この度、本市では、災害の記憶を風化させることなく、次代へ継承していくため、本市の災害対応の状況について取りまとめた記録誌「平成30年7月豪雨災害の記録」を発刊することといたしました。発刊に当たって御協力を頂いた方々に感謝申し上げますとともに、国や県を始めとする関係機関、全国の皆様から多くの御支援・御協力を頂きましたことに重ねて感謝申し上げ、発刊の御挨拶とさせていただきます。

平成31年3月
広島市長
松井 一實



目次

広島市の概況	1
Chapter 1 平成30年7月豪雨災害の概要	
気象状況	3
被害の概要	6
避難情報の発令	11
避難状況	12
Chapter 2 本部員会議・市災害対策本部	
本部員会議	13
市災害対策本部	14
Chapter 3 救助・捜索	
救助・捜索	17
警防本部・通信指令室	18
現地総合調整所	19
現地指揮本部	19
広島県内広域消防相互応援	19
緊急消防援助隊	19
関係機関との連携	20
消防団	21
Chapter 4 被災者支援に向けた取組	
医療救護班	23
医療支援班・保健活動班	23
DMAT	24
DPAT	24
生活衛生に関する支援	25
罹災証明書の発行・被害認定調査	25
仮住宅の提供	26
民有地土砂撤去	26
Chapter 5 他機関との連携	
TEC—FORCEとの連携	27
周辺自治体への支援	27
Chapter 6 災害ボランティア	31
Chapter 7 東区	35
Chapter 8 南区	43
Chapter 9 安佐北区	51
Chapter 10 安芸区	61
Chapter 11 避難対策等検証会議	73



広島市の概況

本市は広島県の西部に位置する。中国山地を背にし、南面を瀬戸内海に接している。標高600mから1,000mの山を中心とする山地部が市域面積の約3分の2を占め、三方から平地部を取り囲んでいる。平地部は、太田川の河口に形成された三角州を中心としている。北部に向かっては太田川やその支流である三篠川と八幡川沿いに、また、東部に向かっては瀬野川沿いに細長く開けている。その他の大部分は、比較的急峻な大小の山が連なる林野でおおわれている。

土壌は、花こう岩が風化して出来た「まさ土」が広がっており、このまさ土は、水を含むとろろく、崩れやすい性質を持つ。

気候は温暖で降水量が少ない、いわゆる「瀬戸内気候区」に属し、平年値(1981年～2010年)の月平均気温は、1月5.2℃、8月28.2℃、年平均16.3℃と比較的温暖である。降水量は南に豊後水道が開けている影響で、夏は南よりの風により集中的な豪雨をもたらすことがある。

市域は南北に約35km、東西に約50kmで呉市、東広島市、安芸高田市、廿日市市、熊野町、海田町、府中町、坂町、北広島町、安芸太田町と接する。また、広島湾を隔てて江田島市と隣接する。

中区、東区、南区、西区、安佐南区、安佐北区、安芸区、佐伯区の8つの行政区で構成されている。



人口・世帯数：平成30年12月末現在(住民基本台帳登録による)
面積：平成30年10月1日現在(国土交通省国土地理院「全国都道府県市町村別面積調」による)